

過去の服薬時の症状を確認し整腸剤の追加を提案した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、過去の服薬時の症状を確認し、整腸剤の追加を提案することで、安全な薬物治療の継続に貢献できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶原疾患に対し手術目的で入院された患者

【入院処方（一部抜粋）】
Rp. クラリスロマイシン錠 200mg 1 回 1 錠、1 日 2 回（朝夕食後）



Hさん

持参薬確認時

以前、アジスロマイシンを服用された際に特に気になることはありませんでしたか？

その薬を飲んだときは、下痢がひどかったと思います。

そうだったんですね。
今回開始となるクラリスロマイシンも同じマクロライド系のお薬です。
下痢の症状が出る可能性も考えられますので、念のため、整腸剤の追加について医師に確認しておきましょうか？

そうですね。助かります。



薬剤師

医師にミヤ BM 錠の追加を提案し、処方追加となった。

整腸剤が追加となりましたが、問題なく服用できていますか？

下痢などの症状もなく、問題なく飲めています。
ありがとうございました。



その後も服薬に問題なく、治療を継続することができた。
持参薬確認時に過去の服薬時の症状を確認し、整腸剤の追加を提案することで、安全な薬物治療の継続に貢献できた。